



## 病院経営とパリアン

医療法人パリアン理事長  
川越 厚

### 3. 賛育会病院長に就任するまで(その2)



**病室に現れた、二人の大先輩**

賛育会病院産婦人科部長の話から10年経過した、今から28年前の話である。

当時、私は39歳。半年前に茨城県立中央病院から大学に戻り、東大分院産婦人科講師(外来医長)をしていた。しかしその時、私は結腸がん(回盲部がん)を患っており、その治療のために東大分院外科病棟の古い個室に入院していた。

二度目の開腹手術が終わり、ようやく病状が一段落した1月下旬の日曜日の夕方のことだった。私の病室に、東大医学部の二人の大先輩が静かに入ってきた。あらかじめ見舞いに見えるという話は聞いていたが、突然の来訪だったので私は大変驚いた。

二人の大先輩とは、石原力(ツム)先生と佐藤智(アキラ)先生。お二人は東大医学部を1948年(昭和23年)に卒業した同級生である。私の生まれたのが1947年(昭和22年)、医学部を卒業したのが1973年(昭和48年)なので、お二人が入ってきた時の私の緊張ぶりはわかっていただけたと思う。

石原先生は、当時虎の門病院産婦人科部長をしていらしたが、私の記憶に間違いなければ賛育会病院の理事をなさっており、虎の門病院の定年退職を間近に控えた先生は次期賛育会病院の病院長が内定していた。佐藤先生は言わずもがな、在宅医療のパイオニアである。ライフケアシステムと言うユニークな互助組織を立ち上げ、その代表をなさっていた。

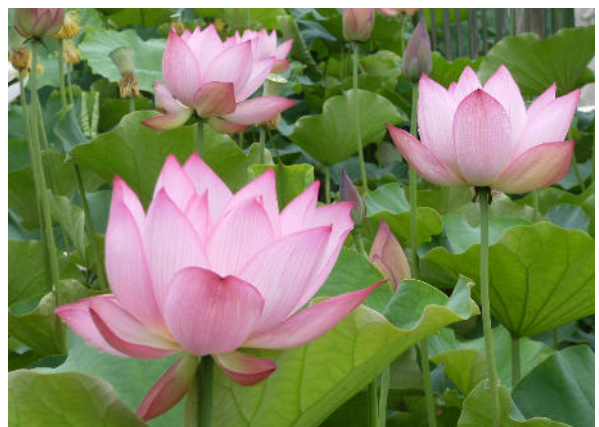
#### 見舞いよりもスカウト?

お二人の大先輩が私の病室に現れたのは有難いことだったが、私の病状を案じ慰めにいらした、というような雰囲気はあまりなかったように思う。それよりも、お二人は私の体力がどのくらい回復しているのかを見定め、自分の後を継ぐ者として私に白羽?の矢を立てるためにいらしたよう

に思えた。たくさん見舞い客がある中での異質な訪問ただけに、お二人の訪問は特に印象深く私の心に残っている。

石原先生はいつもの真面目な顔で、「東大講師というふうなつまらない仕事は辞めて、早くこちらに来て私の仕事を助けてほしい」とおっしゃった。佐藤先生からも同じような趣旨で「ライフケアシステムに来ないかね」とのお誘いを受けた。おしゃべりな私と違い、お二人はどちらかと言うと寡黙。その分、お二人の話には言うに言えぬ迫力があつた。しかし、自分自身の病気の行方が定まるような状況でなかったため、私は即答を避けた。お二人の訪問時間は短かったが、ここまで私を評価してくださる先輩がいらっしやることにうれしく思い、その暖かい言葉には大変勇気づけられた。

しかしこの時点で、私はまだ39歳の若輩。とてもお二人の後を継げるような年ではなかった。ただ、もし体力が回復し、東大を辞めてその後の行き先を考えるとときには、お二人の意向をもう一度確認し、自分なりの納得のいく道を決断したいと考えた。



#### これまで関わった仕事

私は自分の働き場を選択するとき、あまり深く考えることはなかった。もちろん好き嫌いはあつたが、「必要だ」と言われると断つことはない。

34歳で医局から茨城県立中央病院へ赴任したのは、「県中の産婦人科に君の力が必要なので、すぐ<2ページに続く>

<1ページから>

に行ってほしい」と言う、恩師坂元正一教授の一言だった。たまたま小用を足している時の話だが、まさか医局のLegendになっている“トイレ人事”に自分がまきこまれるとは、夢にも思っていなかった。考える余裕などなく、いつもの調子で「はい」と軽く答えた。

38歳の時母校に戻ってきたのには、私を可愛が



ってくださいました水野正彦教授の一言があった。茨城県立中央病院の居心地があまりによかったので、「大学に戻りたくないのですが、どうしても駄目ですか」と、自分の気持ちを伝えたところ、水野教授からは「子供みたいな駄々をこねるのではない」と笑いながら諭された。

東大に戻ってからは分院産婦人科の川名尚教授の下で講師を務めたが、結腸がんの病み上がりで体力の限界を感じ、41歳のとき東大講師を辞した。講師として十分な働きもできず、医局の諸先生方にも多大の迷惑をかけた。そのことは今でも申し訳なく思っている。

大学を辞めての、新たな働き場所。それは佐藤智先生が率いるライフケアシステムであった。石原先生には申し訳なく思ったが、この時点では賛育会病院に対して私はあまり魅力を感じていなかった。

## 日中独居となる患者と家族への看護師の対応とは

パリアンではデスカンファレンスを月1回開いている。亡くなった方のケアを振り返ることは、私たちのケアをより良いケアに導いてくれるからだ。事情が許せば、遺族に参加してもらい、忌憚のないご意見をうかがったり、共にケアにあたった他事業所のケアマネジャーやヘルパーに意見をもらうこともある。

今回のデスカンファレンスは、新人訪問看護師が「日中独居となる患者と家族支援」についてまとめ、報告した。

### 「自宅で最期を迎えるための安心して過ごせる環境整備」が重要だと気付いた

自宅で最期を迎えたいという患者さんとご家族の希望を実現するために、介護負担を軽減できるよう配慮しつつ、日中独居となる患者さんの体調の変化や看護師の看護ケアなどの情報を共有して、介護者との信頼関係を深めていった。

患者さんとご家族が安心して過ごせる環境の整備は、①患者を支える家族のライフスタイルに合わせたサービスを提供するなどの介護調整の重要性 ②死を前に過ごす時間を十分に配慮するために、終末期から臨死期にかけての病状の変化や予後についての判断および家族への連絡のタイミングが重要だということ、この事例から学んだという。

参加者からは、発表した新人訪問看護師を励ます意味で、次のような意見が出された。

①日中一人になる患者さんの気持ちを聞き理解する(日中一人になることをどのようにおもっているのか)。事例の方は寡黙で自分の気持ちを表現しない人だったので、なかなか難しかったと思う ②できるだけ家族が生活パターンを変えない(仕事を続ける)で介護できるようサポートする。しかし、いくら高齢の方といえども、末期がんの患者さんなので、大切な時には仕事をセーブして患者さんの側にいる大切さも話す(看取ったあと、後悔が残らないように) ③フォーマルなサービスだけでなく、ボランティアの訪問などインフォーマルなサービスの導入も視野に入れてマネジメントする。



デスカンファレンスで事例検討する看護師と医師

## 7月の研修受け入れ

帝京大学医学部附属病院 研修医 地域医療研修 7月 1日~7月 31日

東京大学医学部 公衆衛生学実習

7月 21日~7月 24日





## 東京ビハラの活動「がん患者・家族語らいの会」について

### ラジオ NIKKEI 日曜患者学校～川越厚の「がんからの出発」より

6月14日～6月28日の日曜患者学校は、「がん患者・家族語らいの会」を開催している東京ビハラの世話人の方々をお迎えしてのシリーズの1～3回目の放送であった。



ビハラ世話人会の皆様と川越先生（後列左）（ラジオ NIKKEI ホームページより）

ビハラとは、サンスクリット語（インドの古語）で“安住”“安らぎ”“落ち着く”という意味の言葉で、東京ビハラの活動を紹介した放送内容である。「がん患者・家族語らいの会」、「仏教カウンセリングを語り合う会」、電話相談（電話番号：03-5565-3418）などの活動を行っている。

#### 【ラジオ NIKKEI 「日曜患者学校」の放送の聴き方】

- ・毎月第1,2,3週 日曜日 21:00～21:30
- ・短波放送・ラジオ NIKKEI 第1：3.925MHZ、6.055MHZ、9.595MHZ
- ・放送終了後は、ラジオ NIKKEI のホームページ  
（<http://www.radionikkei.jp/inochi/>）、  
または「日曜患者学校」で検索しても聴けます。

## プレゼント作成に熱が入る手作りグループ

手作りボランティアグループでは、メモルの集いでのプレゼント、クリスマスプレゼント、介護用品、メモリアルツリー、姉妹ホスピスへのギフトなどを作成している。

6月7月からは、メモルの集いでご遺族に贈るプレゼントの作成にとりかかっている。期間が限られており、作成数も決まっているので、期日に間に合わせようと、一所懸命手を動かしていた。



作品作成に熱がこもる  
手作りボランティア



手作りボランティアの  
作品集

## 第2回ボランティアの集いを7月18日に開催します

7月18日午前10時30分から、第2回ボランティアの集いを開催します。第1四半期の活動報告と第2四半期以降の活動予定を行い、その後、パリアンボランティアの活動をより活発にするための検討を行いたいと思います。終了後、今年25日の第3回公開講演会での当日の係の作業分担を決めて、万全を期したいと思います。

## 7月のボランティア活動予定

- ・パリアン講演会：7月25日（土）午後2時～4時
- ・ボランティアの集い：7月18日（土）10時30分～12時  
（第3回公開講演会の第2回実行委員会を兼ねる）
- ・サロン・ド・パリアン：7月3日、17日、24日、31日
- ・手作りボランティア：7月21日（火）午後1時～
- ・事務&聞き書きボランティア：7月18日（土）午後1時～



7月の花(芝田さん提供)

## 編集後記

パリアンの1階の玄関と研修室に、いつも季節の花々が飾られている。毎週1回欠かさず花は取り替えられている◆パリアン研修室は、昼食をとりながら職員が語り合ったりする場であり、サロン・ド・パリアンでは、毎週患者さんと昼食を取りながら語らいをする場であったりする。そんな時いつもあるのが、この花たちである。小さな花瓶に生けられている花たち、決して豪華と言えないが、見る側の心を和ませ、楽しく幸せにしてくれる◆この花の提供者は、実はパリアンの患者さんである芝田さんだ。本当にありがとうございます。パリアン通信では、去年の9月号からボランティア活動予定の欄に花の写真を定期掲載している。これからも継続していきたい（I. E）

# 在宅ホスピスボランティア講座受講生募集



## 私たちと一緒に活動しませんか？



ボランティアグループパリアンは、最期のご自宅を過ごしたいと願うがん患者さんや家族の暮らしを、パリアンのスタッフと共にチームで支えます。在宅ホスピスケアのボランティアとはどういうものなのかを広く知っていただき、パリアンでボランティアとして一緒に活動しませんか？

《パリアンの活動はホームページやブログ・フェイスブックをご覧ください。\_   クリック》

- 対象 **在宅ホスピスケアに興味があり、  
パリアンでボランティア活動を希望する方**
- 日時 **平成27年 9月5日（土）10：00～16：00**
- 会場 **医療法人社団パリアン  
（東京都墨田区立川 2-1-9 KHハウス 1階研修室）**
- 講座概要 **1 パリアンの在宅ホスピスケアについて  
2 チームケアとパリアンボランティアの活動紹介**
- 募集人員 **10人（先着順で定員になり次第、締切ります）  
《応募いただいた方には事務局からご連絡いたします》**
- 受講料 **500円（資料・昼食代として）**
- 申込締切日 **平成27年 8月22日（土）【必着】**
- 申込方法 **氏名、性別、年齢、住所、連絡先電話番号を記入の上、  
下記申込先にFAXまたはメールにてお申込みください。**
- 申込先・問合せ先 **医療法人社団パリアン ボランティア講座事務局  
FAX：03-5669-8310/TEL：03-5669-8302  
e-mail：volunteer@pallium.co.jp**